



信仰: 信仰の成熟を目指して

- 1月から体調を崩し厳しい寒さを覚悟した今年の冬でしたが、例年ないほどの温かい日が続き、神の憐れみとみなさまのお祈りに支えられて、新しい春を感謝を持って迎えています。皆さまにはお変わりございませんか。
- この小さな群は、この春で12年目の活動に入りました。牧師もいない信徒だけの歩みが、あの未曾有の東日本大震災を通して、神は多くの支援者を新たに起こし、この家の教会を存続させるだけでなく、被災地支援活動までさせて頂きました。多くの神の憐れみと誠実を体験して、心からの感謝と賛美を捧げています。
- 会員も高齢となり、身近な友人や知人にも天に召される方も増える中で、私たち自身もその備えを心掛け、一日一日を大切に過ごそうと励まし合っています。
- お互いの長い信仰生活の中では、様々な苦しみや試練にもあってきましたが、その中でも一人一人が「レムナント（残りの者）」として、搖るがないキリストの土台に立ち、年齢に相応しく、信仰においても、人間としても「成熟」を目指す目標が与えられました。そのように願う私たちに、主は「私たちは、キリストについての初步の教えをあとにして、成熟を目指して進もうではありませんか。」〔ヘブル6/1〕のみことばを与えて励まして下さっています。
- 主の御心を学ぶ時には、「幼子のような（childlike）」純真さを失わず、老齢になると現れがちな頑なさ（childish）に陥らないように注意し、成長させて頂けるように互いに心掛け前進したいと思います。
- 「神に栄光を帰す」という私たちの信仰で、今、私たちには何が一番求められているでしょうか。
- 「御翼」2月号（牛込キリスト教会/佐藤順牧師）で、主の山上の教え「心の貧しい者は幸いです」の説き明かしを通して心の貧しいという意味は「もう神に頼るしかないと知っていることである」とずっと胸に留まる深い真理、これこそ成熟への道で最も必要なことであると教えられました。
- 旧約のイスラエルの歴史では、状況の変化の中で、信仰に先んじて人間的な思いや判断が入り込み、幾度も失敗を重ねてきました。現代の私たちの教会や教団、個人の信仰にも同じような傾向が見られるのではと案じてきました。
- 宗教改革において、聖書から「信仰のみ・聖書のみ・万民祭司・恵みにより」などの神の真理が掘り出されましたが、私たちは今もう一度立ち止まって、その真理に照らして社会的な価値観がキリスト教界に入って、支配していないかを点検する時に来ているように思います。
- 私たちは、新しい年度、主キリスト・イエスにまみえる時にいただける「榮化」を目指し、「聖化」の細い坂道を、神を見上げ、この日も一歩一歩祈りながら登り続けたいと願っています。この年も皆さまの祈りと励ましをお願い申し上げます。

■ 先月の多くの恵みから

- ① 皆さんの祈りと支えによって、今年は3/9に東松島コミュニティセンターで、3/11には女川のまちなか交流館で第8回、宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会が、久米小百合・向日かおり・救世軍ジャパンスタッフバンドアンサンブルの協力で開催でき、被災者に寄り添い、追悼の時を持つことができました。

● <祈りの要請> 主が立てて下さっているこの小さな教会「石巻祈りの家」が神と地域に良き働きが2019年もできるように

- ② 3/11に森 和亮師〔(ハイランドキリストC協力牧師)と田所賢二師〔松本バプテストC牧師〕が教会を訪ねて下さいました。
- ③ 3/10には、竹下 力師と静夫人、3/24にはSBS校長でセンターの森谷正志師に礼拝奉仕を頂き感謝しました。
- ④ 3/10にCrash Japanの永井敏夫師が訪問、3/10の礼拝には松浦 賢さんと増田裕生兄、3/17の礼拝には関口・、村田・、安藤姉妹が参加して下さいました。女川集会で退院された鈴木手以師、東京に戻られて新たな奉仕を始められた平田美保さんともお会い出来て感謝しました。
- ⑤ 要請のあった特老に入居中の佐藤隆さんを今月も毎週火曜日午後に訪問し、賛美し、祈り、みことばを読み、お交わりができました。神の愛が受けられるようにお祈り下さい。
- ⑥ 3/15に、コーラス「花」は介護施設「ぬくもりの家」に歌の訪問に出かけ、入居者と沢山の歌を楽しみました。
- ⑦ 3/27に川上直哉師による市内教会合同学習会がオアシス教会で持たされました。
- ⑧ 4/21のイースター礼拝は、今年も石巻山城町教会〔関川祐一郎師〕で一緒にさせて頂くことになり感謝です。
- ⑨ 祈りを要請してきました長野の小林和子さんの妹さんは長い闘病生活の中、3/8に天に召されました。残された子どもさんとご家族の皆さんに神の支えのお祈りをお願いします。

■ 今月以下の課題についてお祈り下さるようにお願いします

- ① 今野かつ子さん/新井李恵子姉/佐藤 隆さん/の治療のために。② 石巻地区の各教会の働きのために。地域より求道者が起こされるように。③ 大平英秀さんのために ④ 九州・西日本・北海道の被災者のために。⑤ 祈りの家の2019年度の活動のために、その必要のために。4/28に年次総会開催

群の定期集会

・礼拝 (毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会 (毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」 (第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸 (第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援 (地域の子どもの要望に応えて)	

信仰を詠う

4月 春の芽生え

陽の光 うけてさ庭の やわ土の
壅みに 数羽の雀遊びぬ
庭隅に 吹き溜まりたる 枯れ落ち葉
光をうけて かすかに匂える
雨風に 揉まれて 落ち葉は庭木ぎの
根本で春の 芽生え育む



今野 かつ子

三寒四温を繰り返し、
日一日と春が近づいて毎
間の温もりに「ほっ」とし
ています。

我が家には、今、
雀の「集会所」となって
とても賑わっています

2019/2月末～2019/3月末までの教会活動の情報と地区教会活動との関わり



2019年度 第8回 宮城三陸3.11東日本大震災追悼祈念会



3/9 会場/東松島コミュ



ニティーセンターで 久米小百合さ



3.11東日本大震災追悼祈念会 3/11 会場/女川まちなか交流館 久米・向日さんの他



救世軍ジャパンスタッフバンドアンサンブルも奉仕



2:46に全員で黙祷をして追悼



3/10 竹下力師が礼拝奉仕/静夫人特別賛美 3/11森師と田所師が教会訪問



久米・向日さんの他 救世軍ジャパンスタッフバンドアンサンブルも奉仕



3/17 関口・田村・安藤姉妹礼拝出席



3/15 コーラス「花」介護施設へ歌の訪問



春の到来

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在り

信仰の歩みの中で

「鶴」

石巻祈りの家 阿部秀子

この家の教会「石巻祈りの家」の小さなコーラス「花」は、今「鶴」という曲を歌っています。かなり前にさらっと歌つたことのある楽譜を無くし、混声四部の譜は手に入つたものの、メロディラインがはつきりせずその楽譜を探していた頃、他の女声コーラスがその素晴らしい演奏をしたと耳に入りました。さらに、そのリーダーが

「阿部さんはどうなさっているかしら？」と尋ねられたと聞き、まさに恵みと早速その方に連絡しましたら、その楽譜を送つて下さいました。

指導して下さっている先生が、その合唱団のために、ユニゾン、三部、あるところは五部に編曲なさつた見事なものでした。さらに、その先生から「是非、歌つて下さい」と伴奏譜まで送つて頂きました。

すぐに皆さんに渡して歌い始め、8分の12拍子の難しいリズムと曲の美しさに魅了されています。

- 私はふつと思う 傷つき帰らぬ兵士ら
異国の土に眠り いつしか白い鶴に
鶴は昔から今も 訪れては声伝(つと)う
それゆえか、いつも切なく声も無く空見守る
- 日暮れの霧の空を 疲れた渡り鳥飛ぶ
あの列の中の隙間は もしや私のために
やがて鶴の群れとなり 蒼い夕靄(もや)を飛び立とう
大空へ鶴の言葉で 世の人々偲びつつ

練習していく、「あら？ 私たちもいつかか鶴に？」

と言いましたら、一人が笑顔できつぱり「私はどっこくにそのことを考えています！」と。

わたしもそれから本気でこのことを考え始めました。
その時は確実に迫つてゐることを。

いつも驚くのですが神さまが私たちを造つて下さつたと聖書は語ります。心を込め思いを込め、手を尽くして下さった神の自信作、神の誇り、喜びの私たちだと。でも、神の思いを否定し、死が現実となりました。神の悲しみはどれ程だったでしょう。イメージング！ 背いた者への憐れみと愛は、十字架というむごたらしいキリストの死で解決して下さいました。私たちにできることは、その主への感謝と賛美を続けること。ただ、それだけのような気がします。新約聖書の黙示録5章11～13節、7章9～12節。天は絶え間ない御使いたちの賛美で満ちています。

マーラーの交響曲4番でも、ソプラノが「天で歌われている程の美しい歌は、誰も聞いたことがない」と。その歌を聴きたいと、いつか確実に聴けると楽しみにして私たちも地上で歌います。賛美歌90番に「ここも神の御国なれば、天土(あめつち)み歌を歌いかわし」

とあるように、コーラスで。

今、私は「見えます」・「聞こえます」・「歩けます」・「話せます」・「食べられます」・「体も温かいです」・これら今まで当然と感じていたことが、今は新鮮な驚きと感謝に変わりました。

主がいつも一緒にいて下さる喜びは踊り出したくなる程です。私にとってのいつかを見据え「人を愛し、生かす働きを、私と一緒にして欲しい」との主のみ声を聴きながら、従つて行きます。

鶴になる日は、それはそれは嬉しい日。私は、マリヤのように主のみ足にしがみつくのです。

感謝！

